

## はじめに



西宮市長  
阿井 俊行

私は、市長に就任して以来、西宮が培ってきた「文教住宅都市」という誇り高い都市理念を継承し、発展させ、西宮の魅力を高めることに努めております。

就任1年目の平成26年度は、大きな政策についての方針転換を行うと共に課題の洗い出しを行ないました。27年度は、組織改革にも着手し、新しい体制で取り組むべき事業方針を予算に反映させました。

その過程で私が大切にしてきたことは、可能な限り職員と直接意見交換を行う時間を確保する、ということです。西宮市の最終的な政策判断を行うのは市長である私ですが、事業を執り行うのは職員であり、現場で市民の皆さんと対応するのも職員であります。私の目指す方向性を的確に職員に伝え、実行してもらうことと共に、施策に対する市民の皆さんの意見や意識を職員から知ることが重要であると考えているからであります。

20歳以上の市民3,500人に広くご意見をお聴きする「市民意識調査」も、皆さんの市政に対する意識を把握するための重要な調査であると位置づけております。昭和29年から継続して実施している調査ですが、毎回多数のご回答をいただいていることから、皆さんの意識の高さ・行政への関心の高さを感じているところであります。行政の一方的な判断で施策を立案し、実行に移すのではなく、皆さんからの「声」をお聴きし、「反応」を意識しながら政策を推進していきたいと考えております。

今年度は、「ストレスサインとその対処方法」、「西宮市の魅力」、「生物多様性」及び「文化芸術」をテーマとして調査を実施しました。ここにまとめました調査結果から皆さまの意識・ニーズを的確に把握し、市民満足度の高い行政運営を進めてまいります。

末尾になりましたが、調査にご協力いただきました市民の皆さま、ならびに調査結果の分析をご指導いただきました関西学院大学政治行動研究センター・山田真裕教授をはじめ、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

平成28年2月